

2022Japan National Team Report ” サポーター”



報告者氏名	堀野 博紀
大会名	ARKAS OPTIMIST WORLD CHAMPIONSHIP
開催地	Bodrum Turkey
大会期間	2022 6/27-7/7

- 帰国後1ヶ月以内に、チームでまとめた上、JODA 海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい

■ 写真資料について

このレポートを補足する資料として必要な場合は、文中に貼り付けて下さい

開催地域の様子	気温35℃、大会期間中は一度も雨は降らなかった。 現地の人たちはとても親切で優しく陽気な印象だった。 近くに繁華街があり深夜までお店は営業していてとても賑やかだった。
宿泊場所	ハーバーからシャトルバスで約10分程度、庭付きの一軒家に宿泊した。
大会のサポーターへの対応は	毎日選手と一緒にシャトルバスでハーバーとホテル間を送迎してもらえた。 大会期間中ハーバーは立ち入り禁止。 観覧船が¥20でレース海面付近まで運行していた。
選手たちのコンディションいつもとどうでしたか？	幸いにも期間中に体調不良や大けがをした選手はいなかった。 メンタル面は、海外での生活に順応するのに個人差はあった。
サポーターとして気をつけたことは？	選手と過ごせる時間が限られているので、僅かな異変がないかを常に気にしていました。 特に食事については毎日ホテルのビュッフェで栄養が偏っていないか、日本から持って行った捕食を食べさせたりしていました。
海外の選手を見て感じたことは？	日本の中学生と何ら変わらないなと感じた。 違いを感じた点は、海外レースに慣れている選手が多かったように感じた。
日本の選手を見て感じたことは？	最初は日本人選手だけで固まっていたけれど、時間を追うごとに他国の選手と自然とコミュニケーションを取っていた。子どものコミュニケーション能力はハイレベルだと感じた。

Spare day の 過ごし方は？	徒歩圏内で繁華街にアクセス出来るので、街を散策したりしていました。 トルコアイスを食べたり、地元のスーパーマーケットに買い物に行ったりとローカルを楽しんでいました。
日本チームとして の課題はありました か	英会話力 海外レースの場数を積むこと
JODA への要望	海外選手との交流レースや練習会の開催を企画して頂きたいです。 今回の大会で特に感じたことは、欧州米国など強豪国は普段から交際交流レースなどに参加しており日本チームとの圧倒的な経験値の差を感じました。是非、日本にも招待して頂きたいです。
その他	JODA の方々へ、いつも OP の活動をご支援して頂き感謝しかありません。 この素晴らしい体験が出来る OPTIMIST をこれからも一緒に盛り上げてまいりましょう。

ご協力ありがとうございました

JODA 海外派遣委員会